

駐日ブラジル連邦共和国大使

アンドレ・コヘア・ド・ラゴ

聞き手 ロバート・ギルフリー



「希望と自尊」の リオデジャネイロ・オリンピック

——リオデジャネイロ・オリンピックは南米初のオリンピックとなりました。

ラゴ 南アメリカ大陸で初めて開催されたオリンピック大会であるだけでなく、発展途上国での開催は、オリンピックの歴史全体でも三度目です。これは、きわめて重要な事実だと思います。

国民が手にした「自信」というメダル

——ブラジルの人々の心に、リオ・オリンピックはどんな影響を与えたのでしょうか。

ラゴ それは一大事でした。ブラジルとしては国際社会との統合を深めたいという強い願望があるからです。ブラ

André CORRÊA DO LAGO
1959 年生まれ。81 年リオデジャネイロ連邦大学で経済学学士号取得。83 年ブラジル外交大学院卒業、ブラジル外務省入省。以後、在スペイン、在米国大使館、欧州連合代表部、外務省環境・特別問題局長などを経て、2013 年 11 月より現職。

ジルは、近隣諸国をはじめ、他国との間でいかなる危機も存在しないのが特徴であり、二〇世紀における成長の目覚ましきでも際立った国の一つです。今日、人口二億人を超えるわが国の地位は、軍事的、経済的な自己主張ではなく、経済力と人口の純然たる成長で向上してきた結果なのです。

一方で、私たちは多くの課題に直面していることについても自覚的ですが、率直に言えば、発展途上国においては全てが発展途上だという印象が国際社会には存在します。ブラジルはこの機会に「有能な国」として世界に認められたい、そういう思いがあったのだと思います。

発展途上国の特徴は、領域によって得手、不得手があるということです。例えば、世界三位の航空機メーカーはブラジル企業です。ボーイング、エアバスの次は、ブラジルのエンブレア社なのです。一方でブラジルは、さまざまな社会問題や医療体制の不備などで苦しんでいます。それだけにブラジルの人々は、発展途上国だからといって強い結果が出せないわけではないということについて強い意識がありました。その意味でも、オリンピックの開催は建設的な意味を持っていたと思います。

——オリンピック直前まで、ブラジルは政治的、経済的

にいくつかの深刻な問題に直面し、治安も懸念されました。ところが蓋を開けてみると、オリンピックは大成ででした。

ラーゴ 私もそのことをとても嬉しく思っています。個人的な感想を述べさせていただくと、ブラジルは、信じられないほどの困難を乗り越えてオリンピックに参加し、しかもメダルまで獲得するアスリートにどこか似ているのかもしれませんが。オリンピック開催が決まった七年前の時点では、二〇〇八年のブラジルが何十年に一度という経済危機に直面し、しかも大統領が辞任に追い込まれる危機的な政治状況が出来しゅったいすることなど、予想だにしていませんでした。しかし、その困難を乗り越えたことによって、リオ・オリンピックの成功はいっそう驚くべきものとなったのです。実際、多くの発展途上国の人々が、発展途上国だからといって何もできないわけではないということをブラジルが見せてくれたことに、満足の意を表してくれました。

リオ・オリンピック開催前の国際メディアの論調は、政治と経済の危機の渦中にあり、発展途上国であり、巨大な格差を抱えている国が、オリンピックをともに開催できるわけないだろうとはやし立てました。しかしブ



リオ・オリンピック閉会式でのフラッグハンドオーバーセレモニー
(中西祐介／アフロスポーツ)

ラジルがその発展途上ぶりを隠さず世界に示しつつ、七年前の公約をきちんと守っている姿は、見る者を奮い立たせるような象徴として見えたと思います。さまざまな困難に直面する国々にとっては、「希望と自尊」の驚くべきメッセージとして受け止められたように思います。実は、多くの国の外交官の方々が、リオ・オリンピックの成功を自分のことのように喜んで、感動を口々に伝えて

くれました。それを聞いた私自身も、大いに心を揺さぶられました。

もちろん、成功に驚かない人も大勢います。実は、私もその一人です。なぜでしょうか。例を挙げるならば、開会式です。リオ・オリンピックの開会式は驚くほど精密に振り付けがなされ、同時に美しく、しかも楽しいイベントでした。この開会式一つだけで、ブラジル人が本気になり、しかも適切な組織を築きあげれば、よい結果を出せることが示せる、そういう自信があったからです。

課題に取り組む姿勢はブラリンピックと同じ

——オリンピック後に、ルセフ大統領が弾劾裁判でその座を追われました。政治は揺れていましたね。

ラーゴ オリンピックでブラジルの抱えるさまざまな難題が消えるわけではありません。ですが、「困難は、いつかは乗り越えられる」という、絶大な希望と信頼を、私たちが得ることができたのは事実です。

ご存知の通り、オリンピック大会が終わってから、ブラジルでは政権交代がありました。前大統領は弾劾され、さらに議会の議長も多くの罪に問われて失職しました。ですが、これは、厳格に憲法の規定に従って行われました。

もちろん賛否両論があり、政治的危機ではありましたが、私たちは憲法と法律の枠の中で、この問題に対応することができました。政権交代の合法性には議論の余地がありません。政治危機と深刻な経済危機、それにオリンピックの準備にジカ・ウィルスの問題まで発生しましたが、それでも大会は成功に終わりました。

とはいえ、ここでアスリートの比喻をもう一度使わせていただくと、試合でメダルを獲得したからといって、人生の難題の全てが解決されるというわけでもありません。ブラジルとしても、オリンピックの開催が成功だったからといって、他の難題が消えるわけではないのです。しかし、オリンピックを成功させることで、他の諸問題にきちんと取り組もうという空気が、国中に醸成されたと思います。——きょうお話を伺っている日は、パラリンピックが開催中ですが、迫力のある試合が展開されています。

ラーゴ パラリンピックに関してはいくつもの興味深い側面があります。実は、ブラジルはオリンピックにおいて特に強い国というわけではなく、そのことを自覚していません。今回はいつもよりずっと良い成績ですが、それでもメダルの獲得数では一三位に甘んじています。

しかしブラジルにとってオリンピックの開催は、自分た

ちの自然な姿からかけ離れたものを世界に誇示するためではありませんでした。ブラジルはオリンピック大国であったことは一度もありません。ところが、実は、ブラジルはパラリンピック大国であるのです。ブラジルのパラリンピック・チームは強豪で、今回も五位の好成績を収めました。この成績を維持するか、さらに良いものとすることを願ってやまないものですが、同時に今回のパラリンピックはブラジルにとって「とても美しい瞬間」でした。障害を抱えた選手の皆さんが、一般的にはほとんど乗り越え難いと考えられる悪条件を克服して活躍する姿は、本当に感動的で、ほとんど信じ難いほどです。彼らは素晴らしい模範だと思えます。ですがそれだけでなく、ブラジル人全体が今回のパラリンピックについてはきわめて熱心でした。切符の売り上げは記録的でしたし、人々が社会的包摂の重要性についてかつてなく意識を高めたことと思います。

一九六四年の東京と似た、リオ大会

——二〇二〇年のオリンピック／パラリンピック大会の開催国は日本ですが、大使から日本に対するメッセージをいただきたいと思います。

ラーゴ 私は、リオ・オリンピックは一九六四年の東京オ

リンピックによく似ていると思います。当時、世界は日本に対してそれほど多くを期待していませんでした。戦争で国土を破壊されて、再建に苦勞し、多くの難題を抱えている国というイメージが一般的だったのです。ところが、日本はオリンピックを問題なく開催する能力を誇示したのみならず、東京を世界でも有数の先進都市へと変貌させて世界を驚かせました。

オリンピック以外でも、新幹線の建設も衝撃でしたし、間もなく日本の電子産業の力に、世界中の人々が気づくことになりました。一九六四年のオリンピックは驚くべき偉業でしたし、さらに七〇年の大阪万博と相まって、世界が抱く日本のイメージは恒久的に塗り替えられました。

一九六四年東京オリンピックで何が素晴らしかったかというと、当時の日本が、世界に対して非常に誠実な形で自分の姿を見せたことです。日本は日本らしくあろうとしたのであって、他の国のふりをしようとしたのではなかった、ということが世界に示されたのです。

実はこの点でもリオ・オリンピックと一九六四年の東京オリンピックは似ています。リオの強みは、ブラジルは一時たりともその本来の姿と違うふりをしようとしなかった点にありました。リオ・オリンピックでは競技場を市内各

所に分散させたため、荒っぽい地区も通らないと会場まで行きつけないようにしましたので、ブラジル社会にどれほどの格差があるのかを、観客は否応なしに目撃することになったのです。市内の現実から隔離された安全な場所での競技だけを見るという状況は、一つありませんでした。

ですが、同時にリオ市民は誠実にオリンピックと関わりを持ちました。オリンピックのおかげで市内のインフラが相当に改善されたからです。この点も一九六四年の東京大会とよく似ています。「オリンピックの真の勝者は、その遺産の中に生きる者」というのが私の考えですが、リオ・オリンピックの最大の遺産は、交通網の劇的な改善なのです。競技会場にもなったグアナバラ湾の汚染を除去する作業も完全ではありませんでしたが、それでも六八パーセントが完了しています。数年後には、環境問題も解決されているでしょう。

そして、ブラジル人が来訪客を歓迎し、しかもとても楽しい人々であるというイメージも世界に広がりました。ですから、オリンピックのおかげで、リオデジャネイロという街の相貌が変わったのです。来訪者を歓迎し、楽しく、自然体で、リラックスして、とても誠実、そして、問題点を隠そうとしない。リオ出身の私としては、この街が大会

からきわめて多くを得た点については、議論の余地がないと思います。

都市改造の絶好のチャンス

——オリンピック／パラリンピックの遺産は、競技の記憶や競技場だけではないのですね。

ラーゴ 二〇二〇年の東京オリンピックとも関連する、重要な問題をひとつ挙げておきます。世界中で自治体の首長は任期が四年、うまくいけば再選されて八年が相場だという事実です。これでは、長い準備期間の必要な、野心的なプロジェクトについて、勇気を持った決断がしにくいのではないのでしょうか。オリンピックがリオにもたらしたのは、湾の環境破壊や交通網の改善、旧市街の再生などの課題について、長期的な取り組みをしなくてはいけないという、都市計画上の視点でした。

これらの都市大改造は、市長の任期を超える時間がかかる問題ばかりなので、通常であれば、とうてい市民を説得できなかつたでしょう。ところが、オリンピックのおかげで都市機能は大幅に改善されました。

さらに、旧市街の再生にも取り組みました。もともとリオの旧市街はとても美しかったのですが、港町からさらに

海辺へと市民が移動してしまい、一七〜一九世紀の旧市街は、醜悪な吊橋の高速道路によって、海辺から切り離されてしまっていました。

ところがオリンピックのおかげで、この吊橋は取り壊され、代わりにトンネルが建設されました。いまや、リオの旧市街は港に向かって再び開放された形となりました。旧市街には博物館や公園、遊歩道が新たに作られ、その再生ぶりは夢でも見ているようです。しかも、オリンピックに伴って開催されたパーティーやコンサートは、どれも、この旧市街地で開催されました。リオ市民はオリンピックのおかげで、古いリオを再発見することになったわけで、これも、リオ・オリンピックが市民に残した、偉大な遺産といえるでしょう。

二〇二〇年東京オリンピックでも、日本橋地区を改造しようという案があると聞いています。日本橋は日本の道路の起点ですから、これも重要で象徴的な意味がありますね。リオの経験から二〇二〇年の東京大会に活かせる教訓があるとすると、東京の象徴的な一角を再生させるための大きな決断をする、またとない好機だということです。●

(翻訳・構成 徳川家広)